

風と視線の抜ける家

この家を計画するに当たって、まずポイントとなったのは、敷地の容積率が小さいということでした。そこから必然的に建物全体の面積（延面積）が決められてしまいます（約85㎡）。

そこで計画に当たっての3つの方針（コンセプト）を立てました。

まず、①面積の無駄を省く。面積を有効に使う。

次に、②狭さを感じさせない開放的な家にする。

最後に、これは私が家を設計する時は常に考えることですが、③風の抜ける家にする。この3つです。

①については、動線部分（もっぱら人の移動のために使用されるスペース）の面積をできるだけ小さくすることが重要でした。そのために、家の中心近くに階段を配し、動線部分をそこに集中させることにしました。

また、容積率の対象とならないロフトを設けています。

②については、物理的な面積は限られていますが、意識やイメージの上では決して限られていません。

同じ面積のスペースを、広く感じさせたり、狭く感じたりさせたりすることができます。

この家ではできるだけ広く感じられるように、視線の抜けを作ることにしました。それもできるだけ長く。

中心になるのはダイニング→キッチン、ダイニング→リビングの2本の視線の抜けです。

この2本をできるだけ長くするようにしました。

特にダイニング→リビングについては、間に外部空間を入れ、更にバルコニーへと続く長い視線の抜けを作っています。

もうひとつ、開放感を得るために、外部へと抜ける視線を作りました。

リビングから外部へ抜ける視線と、ダイニングから外部へと抜ける視線です。

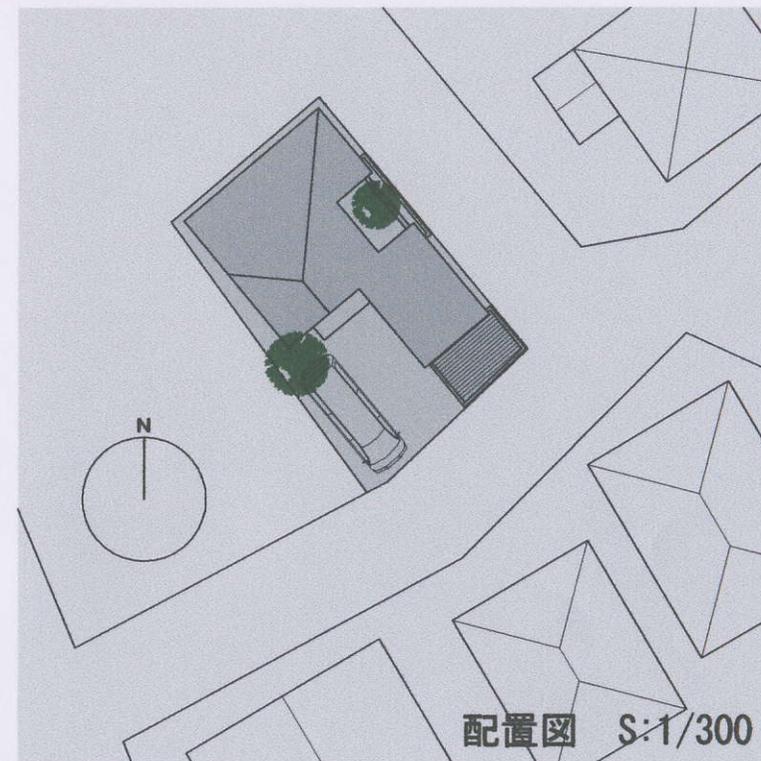
外から玄関に入ると、ホールを通り坪庭へと抜ける視線が生まれます。家に帰り着いてほっと、気分を和ませてくれるはずです。

③については、私にとっての家づくりの基本です。

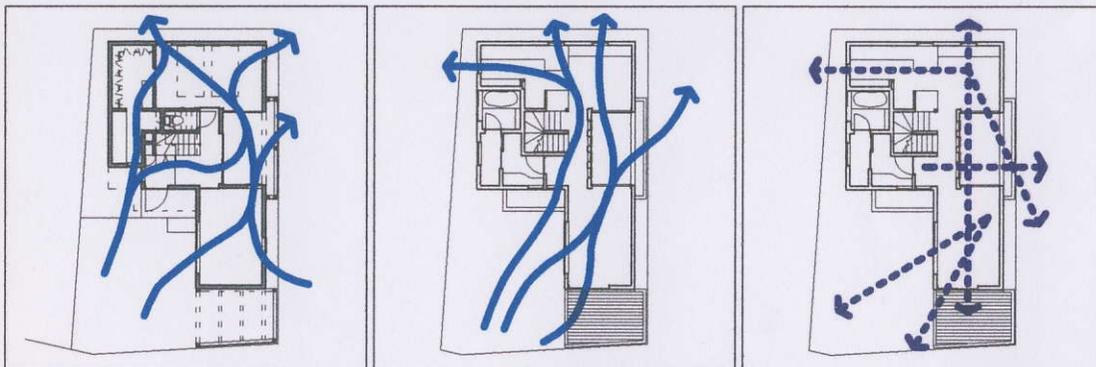
風が家全体を通り抜ける。

これは住む人の健康にとって重要なばかりでなく、建物の健康にとっても重要です。

「風水」と言いますが、良い風は良い運気を運んでくれるはずです。



配置図 S:1/300



1階の風の抜け

2階の風の抜け

視線の抜け



平面計画

基本的な構成は、1階に寝室、子供室、2階にリビング・ダイニング・キッチンを配置しています。

庭が広く取れるならば1階リビング・ダイニングということも考えられたのですが、それができませんでしたので、2階にもってきました。

就寝時以外で最も多くの時間を過ごす場所を、最も条件の良い位置に配置する、ということが基本的な考え方です。

建物中央部は動線と水廻りになっています。ここに機能性が求められる部分を集中させています。

この部分は坪庭に面しています。この坪庭がこの家のポイントになっています。

2階水廻りの上にロフトを設けました。ロフトは書斎です。

1階で特に配慮したことは、階段下のスペースなどをできるだけ無駄にすることなく、活用することでした。これらのスペースがすべて収納スペースとなるようにしました。

あまり好ましいことではありませんが、階段下に便所を設けました。天井高さが十分に取れませんが、床を10cm程度下げています。

納戸の隅に設備配管用のスペース（PS）をとっています。小さな住宅ではとらないのが一般的ですが、将来のメンテナンスのためにも、設備配管が構造体と干渉しないためにも必要です。

2階のリビングとダイニングは一室とせず、空間的には連続していますがスペースとしては分離されています。

小さい家ではリビング・ダイニングを一室とすることが多いですが、ここではあえて分離しています。

それによって逆に家としての広がりを感じることができると思います。

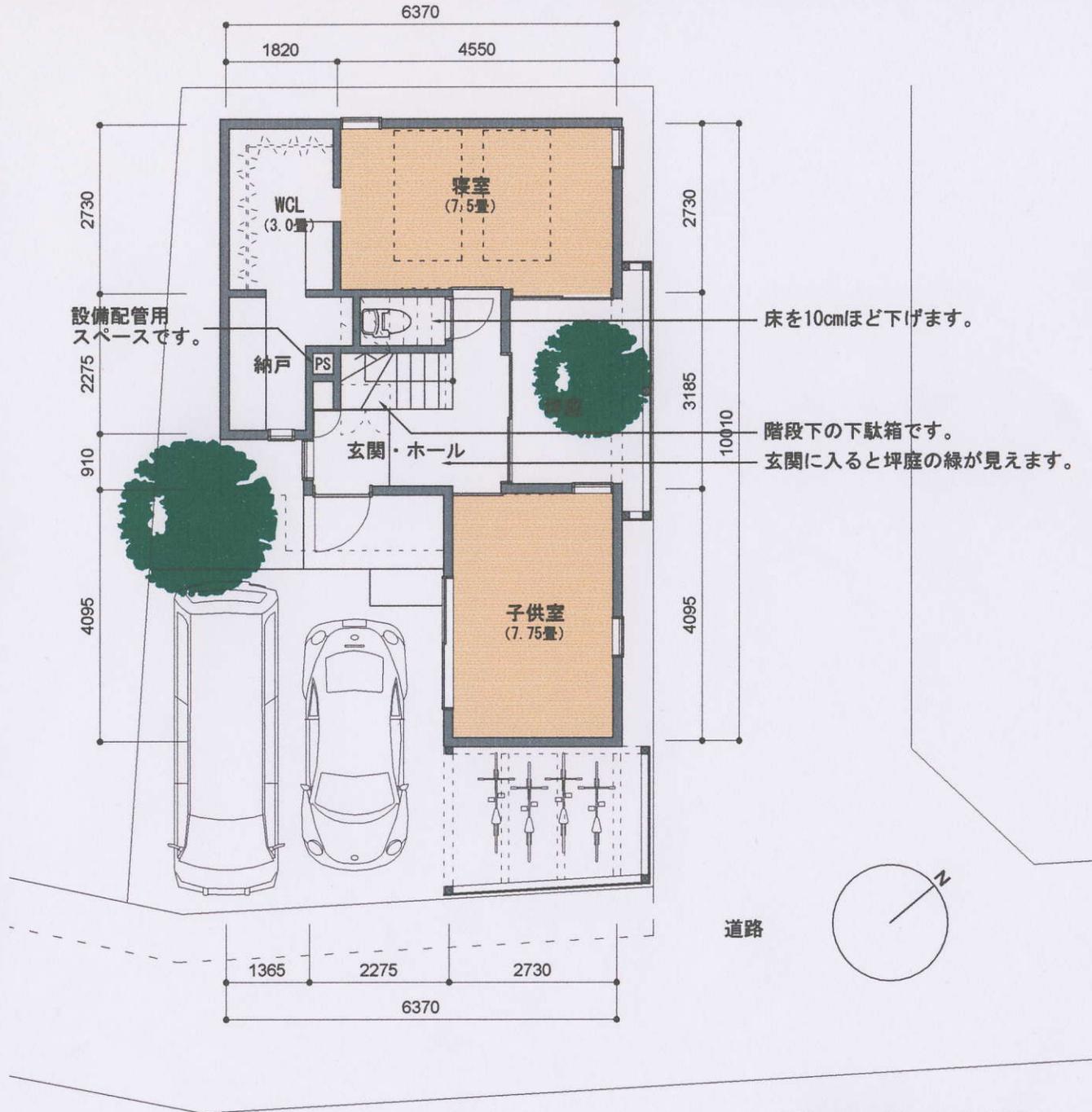
リビングとダイニングでは部屋の目的も異なりますから、その意味でも分離する方が正しいと思います。

リビングとダイニングを分離する目的は別にもあります。

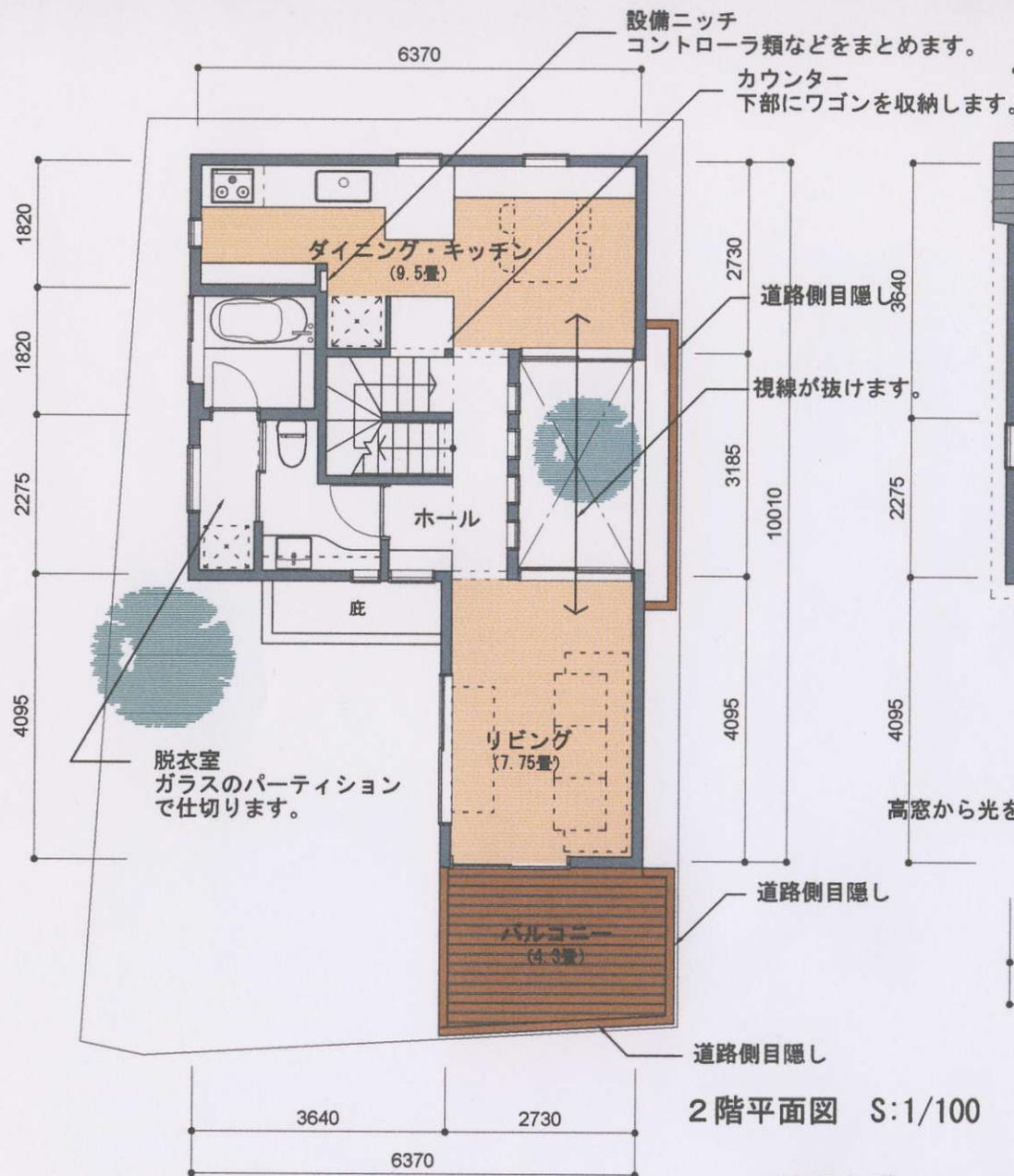
双子のお子さん達はまだ小さいので育児に手がかり、部屋もなかなか片付かないのではないのでしょうか。もう少し大きくなると、今度は部屋を散らかしたりすることも多くなるでしょう。

そのような場合に部屋が分離されていれば、常にひとつの空間を片付いた状態にしておくことができます。

お客様の対応にも便利です。毎日の生活で育児の大変さから一時でも開放される場所になると思います。



1階平面図 S:1/100



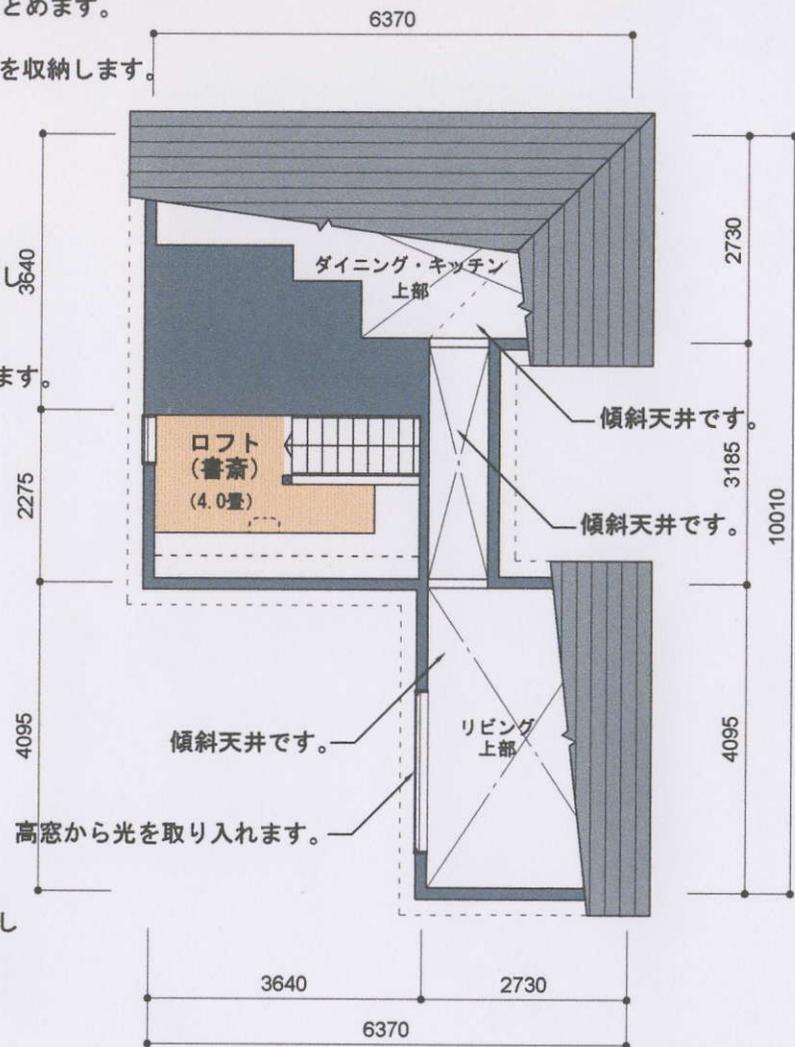
外部仕上げ

- 外壁：モルタル+弾性リシン吹付け
- 屋根：コロニアル葺き
- 建具：アルミサッシ
- バルコニー：木製・スノコ床

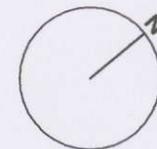
主要な内部仕上げ

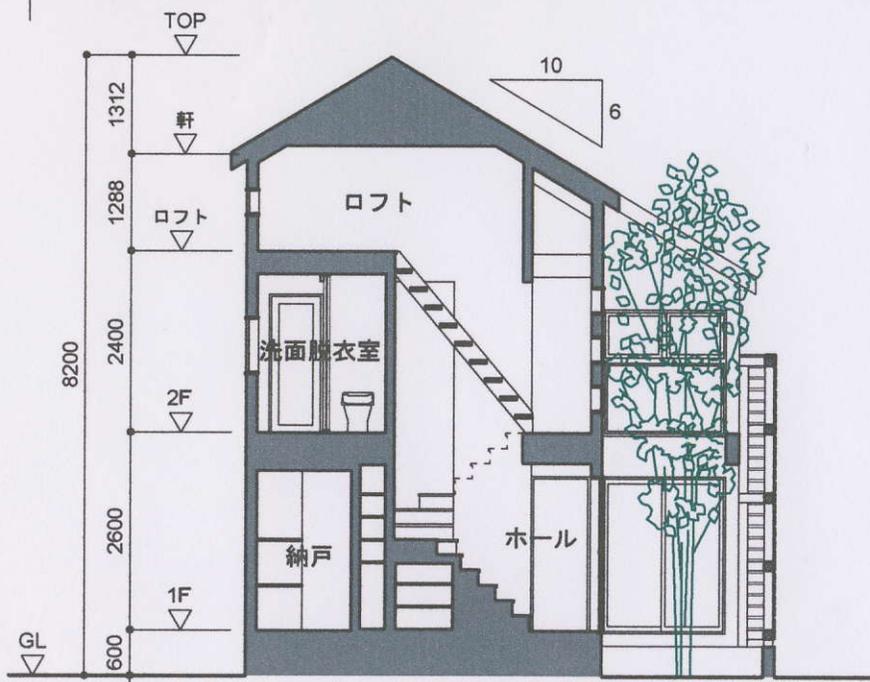
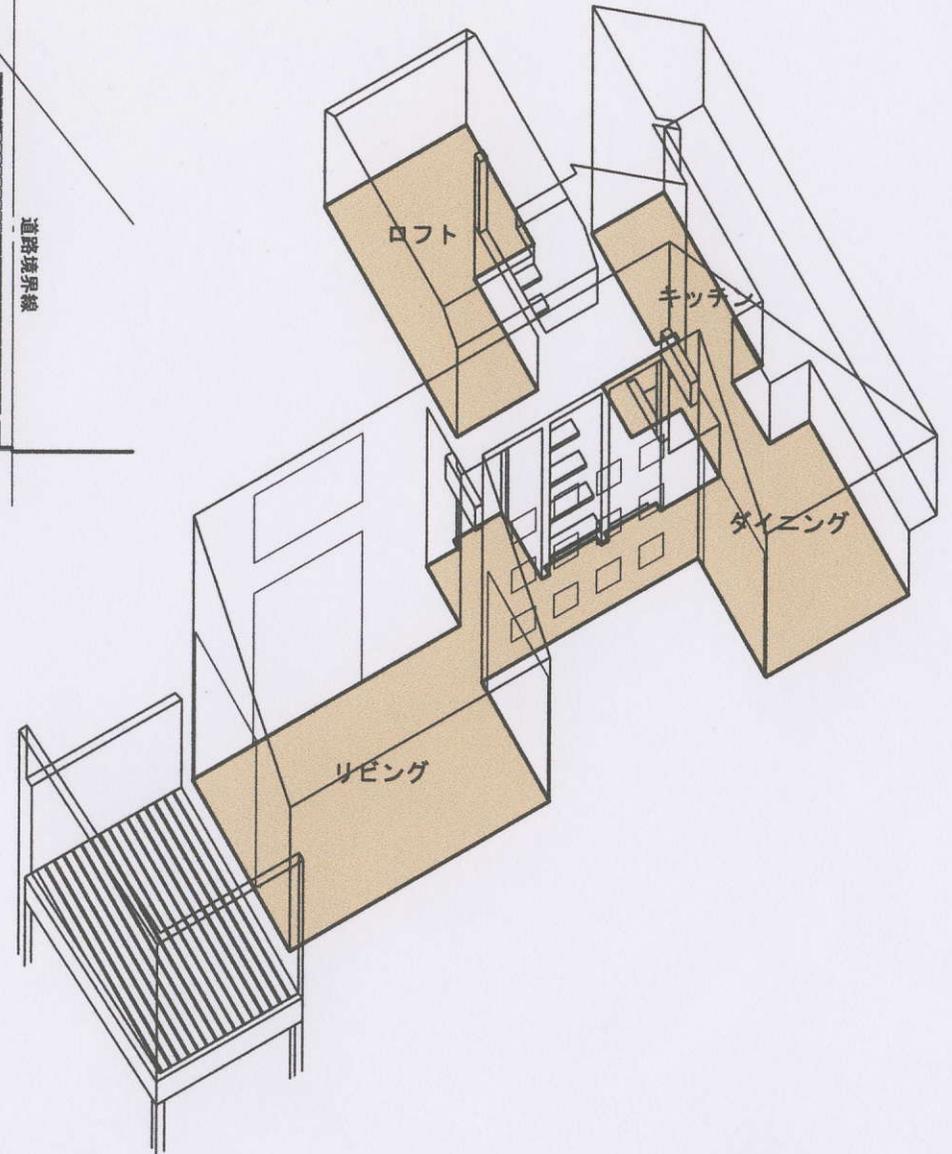
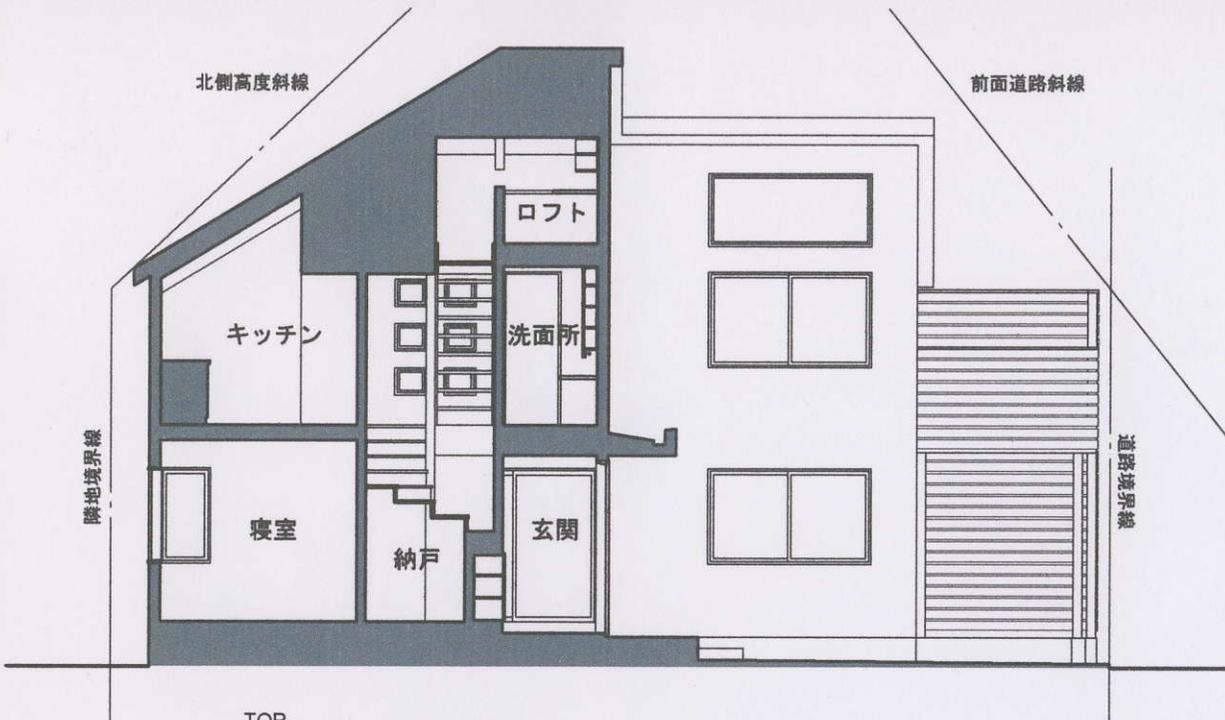
- 床：フローリング
- 壁：ビニールクロスまたは漆喰塗装
- 天井：漆喰塗装

※壁仕上げはお子さんが汚しても掃除しやすいビニールクロスか、健康的な漆喰塗装がいいと思います。

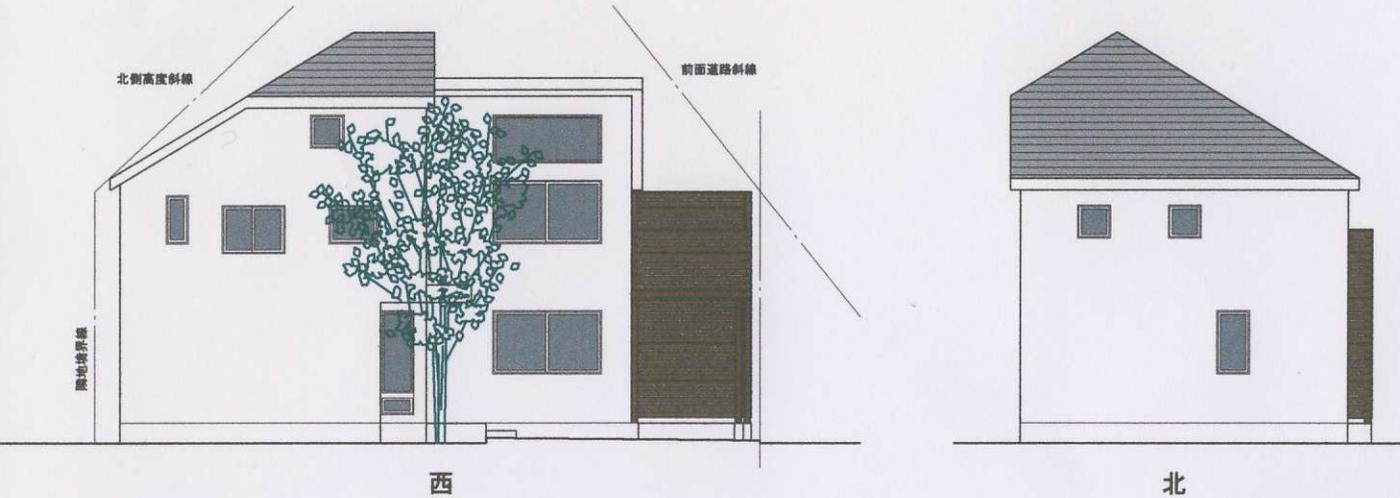
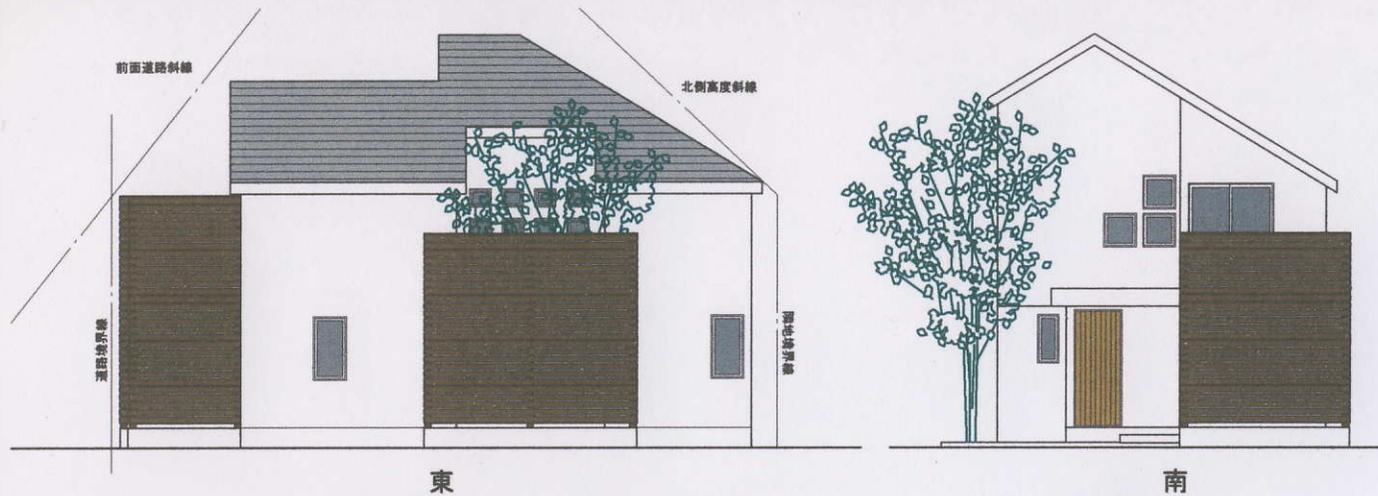


面積表	
敷地面積	106.45㎡
各階面積	1階 41.82㎡
	2階 43.06㎡
	ロフト階 8.28㎡
延べ面積	93.16㎡
	(28.23坪)
建築面積	43.06㎡
容積率対象面積	84.88㎡
建蔽率	40.45%
容積率	79.74%





断面図 S:1/100



立面図 S:1/150



断面計画

この敷地は第1種高度地区内にあり、北側高度斜線の影響を強く受けます。そのため、北側の高さを低く抑えなければなりません。そこでできるだけ建物の階高を低くしなければなりません。しかし、2階部分に水廻りがあり、その排水管が1階天井裏を通りますので、その部分は天井懐が必要です。この点に配慮して、水廻りの下には天井が低くても良い部屋を配置しています。ロフトを水廻りの上に配置したのも同じ理由によります。北側高度斜線の影響で、ダイニング・キッチンの北側と東側の天井が低くなります。そこで屋根勾配に合わせて傾斜天井にしています。

リビングは東側の天井を低くする必要はないのですが、ダイニングにそろえ、傾斜天井とし、高くなった部分にハイサイド窓を設けています。屋根は少々強い傾斜屋根です。わが国のように強い雨が多いところでは、大きく単純な傾斜屋根が適しています。軒の出も大きくしたいのですが、斜線の関係で短くなってしまいました。

構造計画

構造は重量木骨構造を考えています。耐震性が高く、計画の自由度も高い構造です。もちろん、構造計算をします。(構造計算料が発生します。)